

POSA 事業 報 告

Project
Operation
Sight for
All

No.15

●平成23年度



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



POSA 目 次



理事長の言葉

『この道を行けばどうなるものか?』

POSA理事長 医療法人 輝秀会 理事長 倉富 彰秀 P1

副理事長より

『POSAと国際エンゼル協会』

POSA副理事長 菊池眼科院長 井上 望 P2

ライオンズクラブより

『第11回バングラデシュ アイキャンプ』

神埼ライオンズクラブ会長 橋 光幸 P3

国際エンゼル協会より

『POSAアイキャンプに寄せて』

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 前田 泰宏 P4

『続いてこそ道』

国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ P5

アイキャンプ参加者より

『POSAのアイキャンプに参加して』

芥川眼科院長 芥川 泰生 P6

『アイキャンプに参加して』 (株)S U P L U S 柴田 一馬 P9

『アイキャンプに参加して』 くらとみ眼科医院 看護師 田中 清隆 P10

『アイキャンプに参加して』 福岡大学医学部5年(2010年12月時点での学年) 伊崎 亮介 P11

『アイキャンプに参加して』 福岡大学医学部5年(2010年12月時点での学年) 実吉 安信 P12

『アイキャンプに参加して』 久留米大学医学部1年(2010年12月時点での学年) 崎濱 れみ P14

『初めてアイキャンプに参加して』

東明館高等学校2年(2010年12月時点での学年) 溝口 智子 P15

『アイキャンプを通して』 桐光学園高等学校1年(2010年12月時点での学年) 倉富 秀之 P16

『アイキャンプに参加して』 東明館中学校2年(2010年12月時点での学年) 崎濱栄太郎 P18

平成22年度事業報告及び平成23年度事業計画

平成22年度・平成23年度事業報告書 P19

御支援頂いた方の一覧表 P20

POSA理事・監事名簿・POSA会員・POSA規約(一部抜粋)・入会のお願い P21

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『この道を行けばどうなるものか？』

POSA理事長 医療法人 輝秀会 理事長

倉富 彰秀



人は、歩みを止めたときに、
そして挑戦をあきらめたときに、
年老いてゆくのだと思います。

踏み出せば
そのひと足が道となり、
そのひと足が道となる。

この道をゆけばどうなるものか？

迷わず行けよ、行けば分かるさ。

危ぶむなけれ、
危ぶめば道はなし。

ありがとう！

(アントニオ猪木の引退スピーチより)



首都ダッカ イスラミア病院にて

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAと国際エンゼル協会』

POSA副理事長 菊池眼科院長

井上 望



今期も無事にアイキャンプ(白内障手術による失明予防活動)を終える事が出来ました。POSAは1999年設立ですがそれ以前の倉富理事長個人での期間を含めると1995年からの活動となります。当初はインドでのアイキャンプでしたが、2000年からバングラデシュに場所を移しています。当時新たな地でアイキャンプを行うにあたり、何も分からない途上国での医療活動を軌道に乗せるのは大変な困難を伴うと予想していました。アイキャンプを円滑に行える名案はないものかと模索していた時、POSA所属の職員が国際エンゼル協会に相談を持ちかけたのがPOSAと国際エンゼル協会との出会いでした。

国際エンゼル協会は、脳性麻痺の障害を持って生まれた川村直子さんが成人する過程で、「多くの人々に助けられたことに対する感謝の気持ちを、社会に還元したい」という本人の意志を受けて1982年に設立されました。「世界に愛を」をスローガンに掲げ、開発途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めるとともに、平和な世界の実現に寄与することを目的とした兵庫県伊丹市にあるNPO法人です。

国際エンゼル協会はバングラデシュで様々な施設を所有していますが、その中に地域住民の健康を担

う診療所があります。POSAはその施設を借りて手術を行っています。POSAが国際エンゼル協会のお世話になっている事は、これだけではありません。安全が確保された宿泊施設を使わせていただき、またダッカ空港からの送迎や美味しい食事の提供等、数え上げてみればきりが無いほどです。更に最も大切な事ですが、患者さんの手術前検診と手術後の経過観察に必要な現地眼科ドクターとの橋渡しもして頂いています。POSAの活動は国際エンゼル協会の協力無しでは考えられない様になっています。

診療所に併設されている施設の一つにエンゼルホーム（児童養護施設）があります。私達は訪問の際にその子供達の笑顔で元気を与えもらっています。毎年訪れる度に成長する優しい子供達を見て、国際エンゼル協会の活動を支えている日本人が何故多いのかを理解する事ができます。

POSAが今日、安全にそして有意義な活動が出来ているのは国際エンゼル協会の協力があっての事です。国際エンゼル協会に感謝するとともに、これからもPOSAとの良い関係が持続できる様に私達も活動したいと思います。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『第11回バングラデシュ アイキャンプ』

神埼ライオンズクラブ 会長

橋 光幸



今回で17回目のアイキャンプになりますが、インドアイキャンプを6回とバングラデシュへ11回、医療援助活動を実施されています。

倉富ドクターをはじめ、参加されている先生方、スタッフの皆さんお疲れ様でした。毎年、年の瀬の忙しい折にアイキャンプに出発される皆様に感謝しています。

眼科医療に対する理解、様々な要因の1つひとつ積み上げてこられたことが、アイキャンプを成功させていると思っています。(白内障に苦しむ患者さんが一人でも多く救われることを祈っています。)

昨年から現地に於いて、セントラルライオンズクラブがホストとして協力して頂く様になりました。スムーズにアイキャンプが行なわれるようになったことと思います。

ボランティアとして協力し合いながら互いに理解、共感できるよう、スポンサーとして神埼ライオンズクラブも、微力ながら協力して行きたいと思ってお

ります。

又、昨年度から眼鏡リサイクル活動も行なっているので、不用な眼鏡の数が集まり次第、眼鏡リサイクルセンターに送って再生眼鏡をバングラデシュでの眼科医療の備品として使用して貰うことが出来るよう皆で不要な眼鏡を頑張って集めています。集まった眼鏡の中には使い古した物や明らかに流行遅れのデザインの物もあるが、ほとんどは新しくまだ十分に使えるものです。その捨てられるはずの眼鏡がどこかで誰かの人生を変えるような贈り物になるでしょう。

この眼鏡リサイクルプログラムにご協力をお願い致します。(再生眼鏡が途上国の人々に可能性の扉を開く)

最後になりましたが、POSAの活動が視覚障害者の減少に繋がり、着実に成果を上げてこられたことに感謝し、これからも、益々の発展を心より祈念申し上げます。



エンゼル協会 孤児たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAアイキャンプに寄せて』 国際エンゼル協会 バングラデシュ所長 前田 泰宏



今回のアイキャンプでは男性60名、女性42名の102名の患者さんに白内障手術を行いました。

現地のミジャン眼科医者は2000年に始まった頃に比べて、すっかりベテランになり今ではスピード技術も大変優れたものになりました。エンゼルホームの子ども達も患者さんのお世話をして多くの学びを得ているようです。この子ども達の中から

未来の眼科医師や看護師が育ち、バングラデシュで病気で困っている人たちの役に立ってくれるようになれば良いと思います。

倉富医師、井上医師、芥川医師はじめ日本から来られた皆さんのお陰で、今年も多くのバングラデシュの白内障に苦しんでいる患者さんの目に光を当てていただきありがとうございました。感謝いたします。



2010/12/28

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『続いてこそ道』 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ



2000年から2010年までPOSAの活動でバングラデシュに光の道を作りました。白内障により目が見えなくて困っている人々のために、POSAはほんとうに素晴らしい活動をしてくださっています。

2010年10月から11月まで5か所で、男性が535名、女性が742名、合計1277名の患者さんに目の検査を行いました。その中から男性84名、女性51名、合計135名の患者さんの白内障手術することが決まりました。

そして12月25日から27日までの3日間、コナバリ村の国際エンゼル協会の診療所で白内障手術が行われました。当日、白内障手術を受けに来られた患者さんは男性60名 女性42名の合計102名でした。手術を受けられた患者さんたちは、みなさん目に光を取り戻すことができました。

2011年に入り、術後経過をチェックするために3回診療所へ来てもらっています。手術を受けたみ

なさんは光を取り戻すことができて、生き生きとしており、性格も明るくなったようです。そしてみなさんとても喜んでいます。

最近私が田舎に行くと昔POSAによる治療を受けた人たちと出会う機会が増えてきました。村の人たちが突然私の前に現れて握手を求められ、「POSAのおかげで光を取り戻すことができてとても感謝している」と挨拶をされることが多くなりました。

みなさんの活動は多くの人たちに希望を与えてくださっています。活動自体は大きなものではないかもしれません、活動の輪は着実に広がっていると実感します。村の人たちの心の中に、とても大きな希望を与えていると思います。これもPOSAのみさんが毎年地道に活動を続けておられるおかげです。これからも皆様の温かいご支援を頂きたいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAのアイキャンプに参加して』

芥川眼科 院長

芥川 泰生



平成22年12月23日より27日までのPOSAのバンガラデシュアイキャンプに参加させていただきました。

私にとって今回は2回目の参加になります。前回は平成16年の暮れに参加し、ちょうど東京からバンコクの機内にいる頃、インド洋で大津波があり、インド洋沿岸で多くの犠牲者が出了た時でした。幸い、バングラデシュでは犠牲者が少なく安堵した事を鮮明に思い出されます。

今回の行きの飛行機はバンコク経由ではなく香港経由でした。1泊せずにバングラデシュのダッカに着くことが出来ましたので、短かい滞在日数の事を思うと大変便利でした。大きな香港空港で井上先生の皆様と無事合流することが出来、安堵しました。

相変わらずダッカの空港はビービーとにぎやかで

6年前と変わっておりませんでした。しかし、コナバリまでの交通事情は少し変わっておりました。道幅が広くなり、車の量も増えておりました。また、前回は途中から細い、いかにもバングラデシュらしい田舎道を20 - 30分位走ったと思いますが、今はずっと幹線道路でした。その幹線道路が大変混雑しており、6年前とはずいぶん変わった感じでした。

コナバリのエンゼルホームに到着すると前回と全く変わらない暖かい歓迎を受け、感謝、感謝でした。しかし、夜は思った以上に寒く、持って行ったすべての物を着込んで蚊帳に入り、寝ました。

翌日（2日目）は朝食の後、翌日の手術の為に、準備に掛かりました。今回は前回と違い、倉富先生の奥さんと看護師の田中さんとが手際よく指示を出して頂きましたので、昼頃には大勢が整いました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

その後、エンゼルホームの子供たちと遊んだり、エンゼルホームの職員の方の結婚式に伺いました。バングラデシュの結婚式を見る折角の機会ですので、喜んで伺いました。思ったより立派な結婚式で、ご馳走も多く、ビーフカレーをたっぷり頂き、恰好の良い新郎と綺麗な花嫁さんを皆で祝福して帰路に着きました。エンゼルホームに戻ってから、明日手術する患者さん達を皆で分担して診察したり、眼内レンズ度数の計測等を行ったり致しました。夜はかわいい子供たちの歌と踊りで歓迎を受け、交流を深めました。夕食後、夜のマーケットを散策し、人力車にも乗り、また、夜は香取線香をたき、蚊帳に入り、寝ました。その次の日（3日目）いよいよ朝から手術が始まりました。前回と同様に2列で行われ、1列はバングラデシュの医師のミジャン先生ともう1列は井上先生が執刀いたしました。私は井上先生の助手を行い、倉富先生の奥様、看護師の田中さん、井上先生の奥様、井上先生のお嬢様達、参加者の皆様の応援で手術を始めました。準備が充分に行われ

ておりましたし、皆、この体制に慣れているので順調に進み、ほぼ予定通り手術が出来、ほっといたしました。私は井上先生の助手につきましたが、井上先生の素早く、落ち着いた手裁きに感心しながら手術に付いて行く事が精いっぱいでした。夕方は次の日の手術予定者の眼内レンズの度数を決めるための検査をして夕食になりました。

最後の日（4日目）はまず昨日手術行った方々の術後のチェックを行った後、皆で記念写真を撮ったり、患者さん達とセレモニーを行ったりしました。その後に2日目の手術に入りました。午前中の2名は私が行いました。井上先生の素早い、手際の良い手術とは違い、もたもたとおぼつかない手術で、井上先生に手助けして頂きながら、制限時間をはるかにオーバーして終わりました。お昼には、地元のライオンズクラブの方々とセレモニーを行い、昼食と共にいたしました。一人のライオンズクラブの方は日本語が堪能で、興味深いお話を伺う事が出来、バングラデシュの方々の考え方も知る事も出来ました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

会食後は再び井上先生の手術につき、4時にエンゼルホームを出発する予定でしたが、その30分前まで手術を行い、30分で着替え、荷造りをし、空港までのマイクロバスに慌てて乗り込みました。バスに乗る前にエンゼルホームの子供たち一人一人と別れる挨拶をして、再会を約束し、別れを惜しました。彼らの目を見ていると、我々の疲れた心がなごみ、救われる様に感じました。この子供たちが、頑張って立派な大人になってもらいたいと願うところです。空港までの交通事情が良かったので、ダッカ空港で時間に余裕が出来、4日目で帰国する、前半のグループの方々とアイキャンプの反省会や意見交換会をして飛行機に乗り込み、帰国の途につきました。

今回のバングラデシュアイキャンプで感じた事は、色々な人の協力でこの様な立派な事業が成り立っている事を知りました。このアイキャンプにボランティアで多くの方々が参加して頂き、バングラデシュの目の不自由な方々のために自分の出来る範囲で、

自分が出来る事を行うという尊い気持ちを見させて頂きました。私の様な年寄りから、働き盛りの企業戦士、そして学生さんまでが一つの仕事に集まり、そして協力して事を成し遂げるという気持ちに感動を受けました。

我々日本人はどちらかと言うと恵まれた環境にあり、ついバングラデシュの様な状況の方々の事を忘れがちです。今回も、POSAの方々が中心になって、エンゼル協会の協力を得て行っている、素晴らしいキャンプに参加出来、体験する事が出来た事に感謝しております。特に、倉富先生やご家族の方々、くらとみ眼科の方々、井上先生とご家族の方々、そしてこの事業に賛同して東京から参加して頂いた方々、それに若い学生さんなど皆で力を合わせて、このキャンプを成功させている尊い気持ちに深い感銘を受けました。感謝、感謝です。

参加させて頂き誠にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』

株式会社SUPLUS

柴田 一馬



POSA - Project Operation Sight for All (すべての人のための視覚手術計画) の精神、POSAのスローガン ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST (分かちあわれない全てのものは、失われる) に感銘を受け、事務局に電話をしてからもう2年がたちます。最初に倉富先生にお会いし、『実際にバングラデシュでの活動に参加してみて下さい』と言われた時は正直、えっ、バングラデシュ、とネガティブな印象を持ったことが思い出されます。そんな私も今回のPOSAの活動で2回目の参加になりました。

2回にわたる現地での活動では、医療知識が乏しい私は全く役に立つことはありませんが、宿泊先のエンゼル協会の沢山の子供たちが、目をキラキラさせ私を『ムタ、ムタ!』と迎え入れてくれることで居場所を見つけられたような気がします。

(『ムタ』ベンガル語で『デブ』の意味でしたが…)

そのエンゼル協会での子供たちと話をしている中で、ある子供が私に話してくれた決意が一番私の心中に残っています。拙い英語での会話でしたが、その子は、POSAの日本人ドクターの活動をみて、バングラデシュでは一番難しいとされている、医師免許を取得する為に毎日勉強を頑張っている、僕も医者になったら、POSAのドクターたちのようになるんだ!と話してくれたことです。その時、この活動の大きさを改めて痛感しました。目が見えない人を助け、それを間近で見ている子供たちに将来の目標や夢を与える、こんなに素晴らしい活動に自分も微力ながら参加できていることが、大きな喜びになりました。今年も、年末に株式会社SUPLUSとして参加できるように、本業に励んで行きたいと思います。

最後にこのような機会を与えてくれました、倉富先生、井上先生、過去2回の活動で御一緒して下さった皆様に御礼を申し上げたいと思います。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』 くらとみ眼科医院 看護師 田中 清隆



今回で、インドも合わせて4回目のアイキャンプ参加となりました。昨年のアイキャンプでは、器具を滅菌する機器（オートクレーブ）の調子が悪かったため、夜中の2時まで手術の準備に時間がかかり、大変苦労しました。今年のアイキャンプでは、もう一台新しいオートクレーブの購入と、調子が悪かったオートクレーブの修理をすることで、苦労せずスムーズに手術の準備が出来ました。

バングラデシュの空港から、アイキャンプ地であるエンゼルホームまで、車で1時間ぐらいの道のりです。その間の車窓からバングラデシュの車や人達、リキシャ、たくさんのレンガ工場の煙突など見るとまたバングラデシュに来たんだと思う瞬間でした。今回は、福岡空港からホンコン経由で行ったため、バンコク経由と違ってエンゼルホームには夜遅く着

いたにもかかわらず、子供達が笑顔で出迎えてくれて、心が癒されました。

今年は、子供達が好きなバドミントンやバスケットボール、ソフトバレー、ボールをお土産で多数持つて行きました。アイキャンプで子供達と一緒にバドミントンなどして遊ぶ時間も、楽しみにしていることです。

今回、手術を受けることができた人達は、ほんの一握りで、バングラデシュでは多くの人が、白内障の手術を受けられないまま、つらい生活をされています。1人でも多くの方が、手術できるように来年も参加させて頂きたいと思っています。

最後に、パリさん前田さんをはじめ、私達の食事などのお世話をしてくれたエンゼル協会の皆様ありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』 福岡大学医学部 5 年 伊崎 亮介



今まで何度か誘われていましたが、なかなか参加する機会がなかったのですが、5年生になり、実際病院実習などを行い、いろいろな医療の現場に興味を持ち、今回初めてアイキャンプに友達と参加させていただきました。弟が一度参加しており、話を聞く機会はあったのですが、バングラデシュというあまり日本人になじみのない国に行くということで、海外経験も今までに全くなかった僕には、どういう場所か想像することができませんでした。実際現地に着くまでは、初めての海外旅行気分で浮かれていました。しかし、バングラデシュの空港に着き、空港を一歩出ると銃を持った警備員のような人が歩き回り、たくさんの人々が柵を隔ててこちらを見るという異様な雰囲気に圧倒されました。またホテルに着くまでの道路にあまり信号がなく、クラクションが鳴り響き、車すれすれを人がどんどん道路を横断していくという光景に愕然としました。

到着した次の日からすぐに手術に入ることになり、初めは手術着を着ることなくちょっとした手伝いのようなことから始めて、最後には手術着を着て機械

出などを手伝うというここまで行いました。初めは今までそのような経験がなく戸惑いましたが、回数をこなすことで徐々に慣れてきて、徐々にスムーズにできたと思います。先生方は言葉あまり通じない患者さんを相手に、スムーズに手術を何十例もこなしていくすごいタフだと感じました。白内障の手術中に感じた事ですが、患者さんは日本だったらどうしてこんなにほつといったんだと思うくらい、眼が真っ白くなっています、あまり十分な医療を受けることができないのだろうなと思いました。実際バングラデシュで白内障の手術を受けるには、平均年収と同じくらいの額がかかると聞き驚きました。日本がいかに恵まれているか肌で感じることができたと思います。

今回参加させていただいて、海外の医療の現場を直に自分の目で見て、バングラデシュという国の雰囲気を感じられたことが一番でした。日本にいたらできないようなこともさせていただき、いい経験になりました。これから医者になるうえでこの経験を忘れず、自分の財産にしていきたいと思います。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』

福岡大学医学部 5 年

実吉 安信



私は今回が初めてのアイキャンプへの参加であり、そして初めての海外のボランティアへの参加でした。このようなボランティア活動に参加することを考えたことすらなかったので、バングラデシュに行かないか、と誘われたときは、正直迷いました。バングラデシュがどこにある国なのかも知らず、調べてみると世界でも最貧国の一つと言われる国であることがわかり、さらに戸惑いました。しかし、これもひとつ経験だと思い、このアイキャンプに参加することを決めました。ここでこの決心をしたことは、今では本当によかったと思っています。バングラデシュにて体験したことは、今後の医療従事者になっ

ていくにあたって、必ず糧になっていくと思います。

バングラデシュに到着して、私はすぐにカルチャーショックをうけました。空港の前で海外から到着する人を見ている大勢の人々、信号の無い道路をものすごい勢いで通る車、その中を平然と横切る人、渋滞で止まっている車に物乞いをする人々、その一つ一つが新鮮でした。最も印象に残ったのは、エンゼル協会の子供たちで、初めて行った私をまるで知り合いだったかのようにバドミントンなどに誘い、一点の曇りの無い笑顔で迎え入れてくれました。今まで子供と遊ぶのが少し苦手だったのですが、そこでは時間を忘れて子供たちと遊んでいました。先に



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

行かれた方が、心が洗われるおっしゃっていた意味がそこでわかりました。

2日目から、私は主にオペ室に入させていただいて、外回りや直接介助などをさせていただきました。大学では現在ベッドサイドの実習をしており、オペ室に入って見学することも何度もありましたが、実際にオペの手伝いをするというのは初めての体験でした。外回りでいろいろな準備をすることでさえ初めてだったのですが、直接介助で器具を覚えて、先生のオペの進行に沿って適切な器具を出していくというのは学生の私にとって非常に貴重な体験でした。実習で見学しているときは、看護師さんがいとも簡単にこなしているように見えましたが、実際自分でしてみるとこんなに難しいものなのかと痛感しました。最初は器具の名前を言われても、それがどの器具なのかもわからないし、いっぱいいっぱいで手術の手順などをみている余裕などいっさいあります。

せんでした。慣れていくにつれ、器具も覚え始め、手術の手順もわかるようになってきましたが、自分が想像する直接介助にはほど遠い出来で、医師や看護師が簡単そうに行っているオペも、外から見るのはこんなに違うのかと肌で感じることができました。この体験は今後チーム医療をするにあたって、とてもためになりました。また、帰宅後の注意事項に関するオリエンテーションでサングラスと点眼を患者さんにわたすイベントがあったのですが、言葉は通じないものの、手を握ってお辞儀をされ、このキャンプに参加して本当によかったです。そして、この活動は本当にすばらしいものなのだなと思いました。

短い間でしたが、本当にいい経験をさせていただきました。先生方、エンゼル協会の皆様、ありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』

久留米大学医学部1年

崎濱 れみ



初めてのバングラデシュは、とても刺激的でした。

衣食住、風俗習慣全てが日本とはちがっていて、ときには戸惑いも感じましたが、多くの驚きと、喜びを私に与えてくれました。

向こうでの食事や生活を通して、また街を歩いたり色々な場所を見学したりした中で、異文化に触れることができたことを嬉しく思います。

中でも印象に残っていることは、まず、アイキャンプで僅ながら手伝いをさせて頂き医療に触れ、オペの臨場感を味わえたこと。

設備が万全とは言えない環境で、患者さんとの間に言葉の壁もありましたが、初めて生で見るオペは

緊張感がありとても面白く勉強になりました。

それから、笑顔いっぱいの子供達と遊んだこと。人見知りの私を“シスター！”と元気よく引っ張ってくれて、一緒に暗くなるまでバドミントンやバスケットをしました。全身の筋肉痛も今ではいい思い出です。きっとこの思い出は、この先もずっと忘れることができません。

私は、今回の経験で学んだことやしたことを是非将来に活かしていきたいと思います。

お世話になった皆さん、本当にありがとうございました！



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『初めてアイキャンプに参加して』

東明館高等学校 2年

溝口 智子



私がPOSAのバングラデシュでの活動を知ったのは昨年一昨年と続けてアイキャンプに参加した江崎円香先輩が、とても貴重な経験だったと楽しそうに話してくれたのがきっかけです。自分の知らない世界に興味を持ち参加することにしましたが、この短い19日間のアイキャンプで感じたことや経験したこと全てが私の宝物です。今、アイキャンプを振り返ってみると多くの方々のお支えに感謝の気持ちでいっぱいになります。

出発するまでは食事は大丈夫なのか、どんなところで寝泊まりするのかがとても心配でしたが、エンゼル協会のゲストルームはとても清潔に整えられており初めての蚊帳体験も楽しく感じられ快適に過ごすことができました。また、カレー味ばかりだと聞いていた食事も現地スタッフが日本人の口に合うよううにと心を碎いておられるのが伝わってきて、美味しいいただきました。宿舎や食事を通して現地の方々がPOSAのこれまでの活動に敬意や感謝の気持ちを込めて出来る限りのおもてなしをされていることを痛感し、心を込めるとはこういうことなんだ、と教えていただきました。

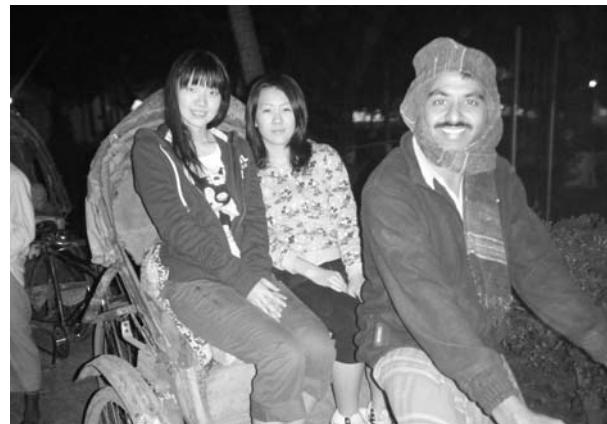
もう一つ心配だったのは、アイキャンプの活動自体にお邪魔になるのでは、ということでしたが、最

初からお役にたてないと分かっていたので自分に出来る事を一つずつお手伝いしようと決めていました。皆さんに優しく接していただき、とても嬉しかったです。

実際の手術室での先生方の熱心な施術や指導を垣間見ることを許され、医療の現場に触ることができました。患者さん達は、お手伝いの私にまで何度も何度もお礼を言ってくださいました。何もしていないので恥ずかしかったのですが、いつか私も人の役に立てるような仕事が出来れば良いな、そんな人になりたいなあ、と思いました。

また、エンゼルホームの子ども達の笑顔も可愛いらしくて、たくさん遊んだのも楽しい思い出のひとつです。子ども達がホームにいる背景を考えると改めて自分がいかに恵まれているかに気づきます。これから、私の出来ることは何なのかを考えて精一杯努力していきたいと思います。

最後になりましたが、お世話くださった倉富先生はじめスタッフの皆さん、現地の方々、そしてPOSAの活動を応援してくださる全ての方に心から感謝しています。バングラデシュでの体験は楽しい楽しい19日間でした。またチャンスがあれば是非参加したいと思います。ありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプを通して』

桐光学園高等学校 1年

倉富 秀之



夜、日本とは違う雰囲気の中、バングラデシュに到着した。

「空港に着くと子供達から物乞いされるよ」など、今回が初めてのバングラデシュである私にとって、不安心を煽られるようなことをいくつか聞かされていました。出来るだけ周りの人と目を合わせないようにしていました。バングラデシュの道路は、常に車のクラクションが鳴り止まず、いつ事故が起きておかしくないような状況で、とても衝撃を受けました。

バングラデシュにいる間、事故に遭わなかったことが不思議なぐらいでした。エンゼル協会の子供達

はみんな笑顔で明るく、それ違う度に声をかけてくれました。そんなやさしい子供達のおかげで、当初抱いていた不安などは無くなり、毎日バスケやバドミントンなどをして楽しく過ごすことが出来ました。私が片言の英語しか話せないので、うまくコミュニケーションがとれませんでしたがそれでも、子供達と一緒に遊ぶことで、心が通じ合えたような気がしました。

エンゼル協会の中は、外と比べると整備された空間、という感じがしました。そういう所だからこそ、人々と上手く接する事が出来たのかもしれない。エンゼルの外のバザールへいく前そんな思いが自分



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

の中に生まれ、空港の時のようにまた不安な気持ちになってバザールへ向かいました。けれども、すれ違う人たちと目が合うと、多くの人が笑いかけてくれたり、話しかけてくれたり、とても友好的に接してくれました。手術室では、周りの方々からいろいろと教えてもらい、とても勉強になりました。医療に関して知識が皆無な私は、質問ばかりで皆様に迷惑をかけていたかもしれません。それでも、高校生では体験出来ないような、貴重な体験をすることができ、とても嬉しく思います。手術待ちの患者さんたちは、怖がっている方もいましたが、カメラを向けると多くの方が笑顔を向けてくれて、撮った写真を見ると、喜んでくれたり、患者さんたちの中で盛り上がりったりして、僕まで楽しくなりました。たとえ病気であっても、誰もが笑顔を持っている。しかしやはり、病気である為に笑う機会が少なくなった

り、喜びが減ってしまうことは、決して避けられないことだと私は思います。だからこそ、こういったボランティア活動でより多くの人々を治療し、少しでも多くの笑いや喜びを取り戻すことはとても重要な事だと思います。そして今回そういった活動に、わずかであっても協力出来たことを誇りに感じます。また、この活動は、バングラデシュの人々に喜びを与えただけでなく、私たちボランティアをする人も喜びをもらった気がします。

バングラデシュでの生活は、日本に比べると不便ではありました。同行していただいた方々や、エンゼル協会の方々のおかげもあり、想像していたよりも快適に過ごすことができ、周りの皆様方には心から感謝しています。これからも、もし機会があれば、この様なボランティア活動に、積極的に参加していきたいと思います。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』

東明館中学校 2年

崎濱 栄太郎

僕はこのPOSAでの活動は2回目だったけど緊張しました。久しぶりだったからです。でも、現地の子供たちと遊んだりして緊張はほぐれました。オペ

室の整理が楽しくて、手伝いは余りしなかったけれど、一回目よりはみんなの役に立てたと思えたので良かったです。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



平成22年度事業報告



〈バングラデシュ眼科診察

及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル

エンゼルアソシエーション（IAA）本部

クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地助手

〈バングラデシュアイキャンプの実施〉

派遣期間：平成22年12月23日から平成22年12月31日まで

実施期間：平成22年12月24日から平成22年12月28日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル

エンゼルアソシエーション（IAA）本部

クリニック施設にて

派遣員：

眼科医 3 名 芥川 泰生 井上 望

倉富 彰秀

看護師 2 名 倉富亜由美 田中 清隆

一般参加10名

伊崎 亮介 井上 歩実

井上 麻記 倉富 秀之

崎濱栄太郎 崎濱 れみ

実吉 安信 柴田 一馬

杉本 拓也 溝口 智子

対象患者数：102名

活動内容

今回バングラデシュアイキャンプも11回目となりました。現地の眼科疾患の症例調査及び1277名の患者さんを対象としたスクリーニングアイキャンプ及び102名の白内障手術を実施しました。

国内啓発活動

バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金、参加の呼びかけ

バングラデシュの現状についての啓発活動

平成22年度事業報告書

平成23年度事業計画

〈バングラデシュ眼科診察

及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル

エンゼルアソシエーション（IAA）本部

クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地助手

〈バングラデシュアイキャンプの実施

及びビタミン配布〉

派遣期間：平成23年12月21日から平成23年12月31日まで

実施期間：平成23年12月23日から平成23年12月28日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル

エンゼルアソシエーション（IAA）本部

クリニック施設にて

派遣員：日本からの眼科医及び看護師、現地眼科医及び現地助手

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



温かいご支援ありがとうございました。

平成22年4月～平成23年3月

敬称は省略させていただきます。(順不同)

寄付者

菊池眼科医院患者様

（松本 いく子
松本 アヤ
小柳 衛
高塚 久嘉）

神埼ライオンズクラブ

世戸 憲男
南 泰三
芥川 泰生
吉村 修

くらとみ眼科患者様

（樋口 マサ子
小田 英夫
古川 ルリコ
西川 ハツエ）

山田 孝
吉田 幸代
小森 啓範
若山 久栄
高濱 結樹

他多数の皆様

タオル 渡辺 ヌイ子
富野 敷子
城島 文芳
實松 ハルエ

神代 幸枝
最所 満子
城島 芳子
牟田 環
他多数の皆様

メガネ 江頭 弘子
江島 マツヨ
中島 キサノ

山田 實
原口 チヨ子
酒本 史
他多数の皆様

医療器材 川本産業
HOYA

ニデック
日東メディック



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



POSA理事・監事名簿

| | | |
|-------|--------|-----------------------|
| 理 事 長 | 倉 富 彰秀 | (医療法人 輝秀会 理事長) |
| 副理事長 | 井 上 望 | (医療法人 菊池眼科 院長) |
| 理 事 | 橘 光幸 | (神崎ライオンズクラブ会長) |
| | 榎 本 純一 | (大坪内科医院) |
| | 野 口 守 | (萬永堂 代表) |
| | 林 敢為 | (介護老人施設グリーンヒル幸寿園 施設長) |
| 監 事 | 末 永 博義 | (末永司法書士事務所 代表) |
| | 田 中 雅美 | (田中雅美税理士事務所 代表) |

(敬称略・五十音順)

POSA名誉会員

| | | |
|------|---------|----------|
| 名譽会員 | 古 川 康 | (佐賀県知事) |
| | 中 尾 清一郎 | (佐賀新聞社長) |

(敬称略・五十音順)

POSA一般会員

| | | | | |
|---------|---------|---------|------------|--------|
| 芥川 泰生 | 鐘ヶ江 正久 | 柴田 一馬 | 原 康夫 | 与那嶺 豊 |
| (株)アステム | (株)神埼薬局 | 杉本 拓也 | H O Y A(株) | わかもと製薬 |
| 東 キヨ子 | 倉富 亜由美 | 世戸 憲男 | 松本 博 | |
| 伊崎 祐介 | 財部 貴資男 | 高橋 雄二 | (株)毛利工務店 | |
| 伊崎 亮介 | 阪谷 洋二 | 田中 清隆 | 森岡 千鶴子 | |
| 井上 香奈子 | 崎濱 れみ | 田中 博都 | 安谷 久美子 | |
| 宇野 光次 | 実吉 安信 | 田邊 樹郎 | 山口 克宏 | |
| 大島 博 | (株)サプラス | (株)日本点眼 | 吉田 幸代 | |
| (株)科研製薬 | 参天製薬(株) | 八谷 臨 | 吉原 俊樹 | |

(敬称略・五十音順)

POSA(ポサ)規約(一部抜粋)

(目的)

第3条 本会は、眼科衛生学に関する知識の普及及び白内障・緑内障に対する研究・ボランティア活動を行い、視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。

(入会金及び会費)

第7条 正会員は、入会金壱万円、及び年会費壱万円を納入しなければならない。

POSA一般会員入会を隨時受け付けております。ご連絡下さい。(POSA事務局 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



Project Operation Sight for All

POSA 事務局

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2435-1

医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院

TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8765

ホームページアドレス <http://www.posaoffice.net/>

E-mail アドレス posa@train.ocn.ne.jp